

” 犬猫のデンタルケア”

南大阪動物医療センター（大阪市） 病院長 吉内 龍策 先生

犬猫の日常のデンタルケアとして、歯磨きが最も効果的であることは言うまでもありません。

けれど歯磨き習慣の定着という話になると、犬でボチボチ、猫でサッパリというのが、実感ではないでしょうか。

それに代わるものとして「ナチュラル・クリン for オーラル」の口内投与が脚光を浴び、その洗浄力と抗菌作用から、大きな反響を呼んでいることはご存知の通りです。

一方、歯科治療として、犬では、定期的なスクレーリングが必要不可欠ですが、必ず歯石は再付着し、目につくようになるまでの期間が短いほど、飼い主の次のスクレーリングのモチベーションは下がってしまいます。

また、猫では、慢性歯肉口内炎が、その診断基準も明確では無く、病理発生も依然として不明のまま、確立された治療法はなく、対症的、経験的に様々な治療が実施されているのが現状です。（下表）

そんな中、「ナチュラル・クリン for オーラル」をスクレーリング後や歯肉口内炎治療に追加することで、治療効果の維持が可能になることが分かってきました。

ナノ化した大豆油脂肪酸の口腔内洗浄液は、成分の大豆油脂肪酸の作用により、歯垢や歯石の再付着や口腔内細菌を減少させることで口腔内洗浄作用を発揮し、日常の犬猫の歯科療法の効果をグレードアップできます。

日常のケアとして、併用療法として、「ナチュラル・クリン for オーラル」は心強い味方です。

口腔内清浄化	スクレーリング 抗生剤（クリンダシン、ビブラマイシン、 メトロニダゾール、コンベニアなど） ラクトフェリン クロルヘキシジン 各種酵素（リゾチーム、ラクトペルオキシダーゼ、 グルコースオキシダーゼなど）
抗炎症	ステロイド剤 酢酸メゲステロール 抗炎症脂質（アンチノールなど） バイオフィトジェニック（ソフトレーザー）

免疫抑制	ステロイド剤 免疫抑制剤（アザチオプリン、クロラムブシル、シクロスポリン、レバミゾールなど）
鎮痛	NSAIDs（メタカム、オンシオールなど） 弱オピオイド鎮痛剤（ブトルファノール、ブプレノルフィンなど） バイオフィトジェニック（ソフトレーザー）
その他	炭酸ガスレーザーによる炎症部位の蒸散 放射線療法 全臼歯抜歯、全顎抜歯 インターフェロン

” 歯石除去後の再付着防止に効果的”

千里ニュータウン動物病院（大阪府） 院長 佐藤 昭司 先生

まずは、口臭が気になるわんちゃんねこちゃんの飼い主様にお勧めしています。
特に健康問題があって麻酔が難しいために歯石除去ができない症例で喜ばれています。
ナチュラル・クリン for オーラルをお渡しする際に歯磨き指導を行い、
また、歯周病を認めた場合には抗菌剤の内服などの 他の治療方法を併用し、
高い治療効果を上げています。

1日2～3回（症状が落ち着けば1回）塗布してもらっています。

早い時期には、2、3日で効果が現れ、7～10日以内には効果を飼い主様に
実感してもらって喜んで頂いています。

次に猫の口内炎によく使用しています。やはり1日2～3回投与してもらっています。

5～10日ぐらいで赤みがなくなり、痛みも軽減されるようです。

もちろん口臭も減りますが、ステロイドの量を減らしたり、止められる場合もあります。
あとは歯垢や歯石の付着を防ぐ効果があるので、歯石除去後には必ずお渡ししています。

” 口腔内環境の改善効果を実感”

みゅう動物病院（岩手矢巾町） 院長 須藤 洋 先生

・歯石による口臭（口腔内を洗浄することで、口腔内環境の改善効果）

口臭の原因が歯石である犬に対して、今までは歯石を除去することで対応してきました。

しかしその一方で高齢や、合併症などの理由で麻酔することに躊躇してしまい

除石できずに、ほったらかしで飼い主さんに我慢してもらうこともありました。

しかし、ナチュラル・クリン for オーラルを使い始めてからは、1日、目安2〜3回、

口腔内への投与を1週間ほど続けることで、口腔内、主に歯垢が洗浄されて、

歯垢の中の悪臭の原因菌が洗浄、抗菌されることで、

口臭はすっかりなくなってしまう。

歯石は無くなりませんが、歯垢が洗浄されることにより、

特に、歯石除去後に使用することで、歯石の再付着を防ぐ効果もありました。

以前は1年から1年半毎に除石していたワンちゃんも2年たっても綺麗な歯のままです。

・猫の口内炎（治療薬と併用して使用）

今までの治療では最初、NSAIDs、抗生剤、インターキャットなどを使用してその後、

効果がなくなってくるとステロイドの内服から

最後はデポメドロールの注射に頼っていました。

しかし次第に注射の間隔が短くなってきますし副作用も心配です。

ナチュラル・クリン for オーラルの洗浄、細菌数を減少させる作用に期待して、

薬剤と併用して、使い始めてからは、デポメドロールの注射の間隔が延長したり、

ステロイドを使わなくてもご飯を食べてくれるようになったりと

薬剤の効果を補助する結果が出ています。

また歯石が溜まっていて口内炎もありヨダレを流していたFeLV+猫が、除石後、

ナチュラル・クリン for オーラルを使うことで歯垢が、毎日、洗浄され、

細菌数が減少する効果により、口腔内環境の改善効果がありました。

口内炎猫の口内炎に薬剤と併用することで、

薬剤の効果を補助することが期待できるという実感があります。

” 臨床報告 ”

三坂動物病院（大阪府） 院長 三坂 先生

日本猫（ミケ）10才・雄

症例：FIV(+)

舌を出して唾液を排出、食欲無し、体温9度5分、口内歯肉部腫れて、炎症あり、
抗生物質及びステロイドにて1週間治療したのちナチュラル・クリン for オーラルを
1日2回、3～4滴部位に投与、2ヶ月あまり使用している。

現在ヨダレ無し、口臭軽減、死肉部位の炎症もほぼ消失、現在、継続中。

ダックスフンド 15才・雄

右目下部の膿瘍を形成し膿汁を排出し、口内奥歯の膿槽膿漏あり、膿瘍部切開後、
生理食塩水にて洗浄、抗生物質及びステロイドにて、1週間治療後、
ナチュラル・クリン for オーラルを1日2回4～5滴投与。

現在も治療中であるが、ナチュラル・クリン for オーラルのみ使用にて経過良好なり。

”とりあえず、ナチュラル・クリン for オーラルを 使ってください”

千里ニュータウン動物病院（大阪） 佐藤 野恵 先生

正直なところ最初は本当に効くのだろうか・・・と疑っていました。

大豆油脂肪酸の作用により口腔内の細菌が減少することから、

口臭が気になっているワンちゃんに試してもらいました。

その結果、口臭が軽減したと喜ばれて、逆に驚き、

原因菌や歯垢の付着を抑制する効果を実感しました。

また、少量の滴下で済むので猫ちゃんにも投与しやすく、重度の口内炎症例では

見た目に変化がなくても、効果が維持できることで

食欲が長く安定する傾向がありました。

手軽にできるので、飼い主さんが高齢な方やデンタルケアの第一歩として、

またスケーリング後の歯周病予防や歯石の再付着の抑制のために

「まずは、ナチュラル・クリン for オーラルを使ってみてください！」と

自信を持ってお勧めでき、継続していただけることが多い商品です。